

# 神宮寺便り



昨年末に山門前の建物が撤去され、当寺が大通りから見える様になりました。まだ数件建物がありますので、もっと良く見える様になります。そして2年後にはその場所は門前広場として、生まれ変わる予定です。幼少の頃、思っていた事が現実になります。嬉しいですね。

## 相続と争続

良啓

昨今、終活が市民権を得る中、色々と勉強しました。その中で「家族に遺産は残さない。」と本気で考えています。まあ、遺産と呼べる程の額があるのかどうか分かりませんが。

旧民法（明治29年）では、当主（男性）が亡くなれば、長男（嫡子）が全てを引き継ぎます。妻や他の兄妹は何ももらえません。その代わり、長男は位牌も継ぎます。つまり、位牌には遺産と言う恩恵が紐づいていました。ところが、昭和22年の大幅改正で、配偶者が半分、残り半分を兄弟で均等に分ける事になりました。こうなると、位牌と言う責任と重圧を継ぐ者（大体長男になります）が不公平です。そこで、実家や多めに遺産を取るなどと調整をする事もあります。それだと法律の観点から違法だと感じる兄弟がいます。そうなると、「相続」から「争続」へと発展します。

導師の立場として、遺産争続の現場を経験した事があります。兄弟がいつまでも仲の良い関係であるとは限りません。特に男性は自己表現が苦手な方が多く、更に核家族化が進み、お互いの家庭の交流が減少しています。それでも解決策は「話し合い」だと思います。上手く引き継ぎが出来る家庭は、そこがしっかり出来ています。しかし、それが無い場合は・・・当寺では、そう言った位牌継承に関する相談を承っています。悩んでいる、将来が心配な方はご連絡下さい。そういう事で、冒頭の話は、火種になる遺産が無ければ良いという悲観的な解決策です。本当は、当事者同士がお互いを尊重して、しっかりとコミュニケーションを取って頂ければ良いですね。

## 身近にある仏教語⑫

裕俊

私達が日常的に使っている言葉の中には、仏教に関係している言葉がたくさんあります。そんな言葉を由来と共にご紹介させていただきます。

## 微妙

「あそこのお店はどうだった？」『うーん、微妙（びみょう）だった』このようなやりとりをしたことはないですか？微妙だった、と聞くとそのお店へ行かなくなると思いますが、ちょっと待ってください。仏教で使われている微妙（びみょう）だともったいないかもしれません。僧侶が法事の際、読経の始めにお唱えする開経偈（かいきょうげ）という文があります。

無上甚深微妙法（むじょうじんじん**びみょう**ほう）  
百千万劫難遭遇（ひやくせんまんごうなんそうぐう）  
我今見聞得受持（がこんけんもんとくじゆじ）  
願解如来真實義（がんげによらいしんじつぎ）

簡潔な説明ですが、「この素晴らしい仏教の教えに出会えた奇跡に感謝し、教えをしっかりと学び悟りを得る事を目指します。」と言う様な文です。一行目に微妙（びみょう）と言う単語が入っていますね。これは「言葉では言い表すことができないほど奥深く素晴らしい」と言う意味になっています。現在のなんとも言えない様を表す使い方は正反対となっていますね。読みが違ふ為、口頭で間違える事はないでしょうが、手紙やメールの文面に「微妙」と記されていたら・・・もしかすると（びみょう）の方かもしれませんね。（笑）

